

平成 30 年度 杏林大学 高校生対象
大学教養レベル「グローバル関連科目」
夏季集中講座 実施要項

<高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」 夏季集中講座とは>

高校と大学では授業形態が異なります。意欲や能力のある高校生が、大学の科目を大学生とともに受講することで、自己を高めるとともに、高校から大学へのスムーズな移行を目指します。

<受講修了証の交付> ・4 科目から選択した科目において、すべての授業に出席し、受講態度が良好であった者には、受講修了証を発行する。

<資格・対象者> ・高等学校・中等教育学校に在学している高校生。 **※学校長の承認が必要です。**

<開設期間> ・平成 30 年 8 月 20 日(月)～平成 30 年 8 月 27 日(月)の期間うち、選択した期間です。

<受講科目> ・受講科目選択リストから選んで、○印をつけてください。

<受講料> ・無料

<保険加入> ・科目等を受講するための杏林大学までの通学、および科目等において学内活動・学外活動する際の傷害・賠償保険は、所属高等学校または自らの責任で加入することとする。

<開講場所> ・杏林大学井の頭キャンパス 〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1
※受講教室については時間割をご覧ください。
※駐車場・駐輪場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

<応募方法> 「高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」 夏季集中講座」に指定されている科目の受講を希望する方は、応募期間内に次の書類を杏林大学 高大接続推進室宛に郵送または FAX にて提出してください。

- ①「高校生対象 夏季集中講座の受講申込書」 **※別添** **※(学校長先生の承認が必要です)**
- ②受講科目選択リスト
- ③アドバンス・プレースメント申請用紙(任意)

<応募期間>

<郵送および FAX 先> :

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1
杏林大学 井の頭キャンパス 高大接続推進室
FAX:0422-47-8056

平成 30 年 8 月 7 日(火)
までに必着

<お問い合わせ先>

杏林大学 井の頭キャンパス 高大接続担当

TEL: 0422-47-8000 (内線 3602,3614～3616) 担当: 晝間 ひるま 青柳 あおやぎ 小金井 こがねい

E-mail: e-koganei@ks.kyorin-u.ac.jp

時間割

科 目 名	科目 A 口語中国語		科目 B 英語をとりまく 多彩な学問		科目 C 英語と日本語で学ぶ 「社会のしくみ」入門		科目 D 感染症を巡る 諸問題とその対策
	中国語系		英語系		総合政策系		保健学系
平成 30 年	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目
	8 月 20 日 (月)	8 月 21 日 (火)	8 月 22 日 (水)	8 月 23 日 (木)	8 月 24 日 (金)	8 月 25 日 (土)	8 月 27 日 (月)
1 限 9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義と演習	講義と演習	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブラーニング
1 限教室	E411, E412	E411, E412	E209 または E103	E209 または E103	F409	F409 変更可 能性あり	F409
2 限 1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義と演習	講義と演習	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブラーニング
2 限教室	E411, E412	E411, E412	E209 または E103	E209 または E103	F409	F409 変更可 能性あり	F409
	昼 食	昼 食	昼 食	昼 食	昼 食	昼 食	昼 食
3 限 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義と演習	講義と演習	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブラーニング
3 限教室	E411, E412	E411, E412	E209 または E103	E209 または E103	F409	F409 変更可 能性あり	F409
4 限 1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義と演習	講義と演習	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブ ラーニング	講義または アクティブラーニング
4 限教室	E411, E412	E411, E412	E209 または E103	E209 または E103	F409	F409 変更可 能性あり	F409

科目 A	平成 30 年 8 月 20 日・21 日開講 1 限から 4 限（9：00～16：10）
開講開始年度	2018
授業コード	（記入無用）
担当教員	徐向東 醍醐美和子
科 目	口語中国語
授業概要 （必須）	本講義は、初級クラス、インテンシブクラスに分かれて行います。それぞれのクラスにて、読む・書く・話す・聴く力を集中的に強化することによって、総合的な中国語の運用能力を高めます。クラスのレベルは以下の通りです。 初級クラス：週 2 回半年間の中国語学習を行ってきた学生を対象としています。（中国語検定準 4 級レベル） インテンシブクラス：週 2 回 1 年間の中国語学習を行ってきた学生を対象としています。（中国語検定 4 級レベル）
到達目標（必須）	初級クラス：学習を進めていく上での基礎的知識を身につけること。 インテンシブクラス：平易な中国語を聞き、話すことができること。
授業計画 （必須）	第 1 回：写作-1 単語や文法事項を確認し、センテンスの作文などの書く練習を行います。 第 2 回：精读-1 短い文章内容を理解するため、発音や文法事項を確認しながら読む練習を行います。 第 3 回：会話-1 発音指導を中心とし、中国語ネイティブスピーカーと話す練習を行います。 第 4 回：听力-1 映画やテレビニュースなど日常生活にかかわるテーマに沿って聞き取りの練習を行います。 第 5 回：写作-2 写作-1 の続きとして、単語や文法事項を確認しセンテンスの作文などの書く練習を行います。 第 6 回：精读-2 精读-1 の続きとして、短い文章内容を理解するため、発音や文法事項を確認しながら読む練習を行います。 第 7 回：会話-2 会話-1 の続きとして、発音指導を中心とし、中国語ネイティブスピーカーと話す練習を行います。 第 8 回：听力-2 听力-1 の続きとして、映画やテレビニュースなど日常生活にかかわるテーマに沿って聞き取りの練習を行います。
準備学習 （必須）	初級クラス： ピンインを見てきちんと発音ができるようにしておくこと。 中国語で名前や簡単な挨拶を言えるようにしておくこと。 その日に学習した内容については、しっかりと復習を行い翌日の授業に臨むこと。 インテンシブクラス： これまでに学んできた中国語検定 4 級レベルの基本的な文法を確認しておくこと。 その日に学習した内容については、しっかりと復習を行い翌日の授業に臨むこと。
テキスト（必須）	必要に応じてプリント等の資料を配布します。
参考書	インテンシブクラス：『言葉と文化 一挙両得』 朝日出版社 初級クラス：『チャレンジ！一年生の中国語』 朝日出版社
評価方法（必須）	授業態度と各回で出される課題にて評価を行います。
URL	
備考	

科目 B	平成 30 年 8 月 22 日・23 日開講 1 限から 4 限（9：00～16：10）
開講開始年度	2018
授業コード	（記入無用）
担当教員	稲垣、北村（嵐）、遠山、坂本、岩本、西山、八木橋
科 目	英語をとりまく多彩な学問
授業概要 （必須）	本講義は、大学レベルの多彩な英語系専門科目を入門的に体験することのできる、オムニバス形式の授業です。一口に「英語系」といっても、杏林大学の外国語学部で学ぶ専門科目は非常に多彩でかつ深みがあります。例えば、発音やアクセントだけにフォーカスした科目や、英語と観光の関係を考える授業、英語という言葉に潜む文化・価値観を詳しく追うクラスなどが存在し、それぞれが 1 年間の講義のテーマにできるだけの奥行を持っています。本講義では、これらの各分野を専門的に研究している外国語学部の教員が、その魅力や面白さの一端を、特別な背景知識がない参加者でも十分に理解できるように工夫しつつお伝えしていきます。（注：本講義は英語力自体の向上を目指す語学系の講義ではありません。受講に際しては、あくまで <u>英語をとりまく学問</u> の多様性を知る機会として頂ければと思います。）
到達目標 （必須）	①英語という言葉に関する様々な研究領域の存在を知り、学問的好奇心を育む。 ②「学術的・社会的に意義がある」研究課題とはどのようなものかを知る。
授業計画 （必須）	<第 1 日> 第 1 回 英語の現在：英語教育の意義（担当者：稲垣大輔 教授） 現代の日本では、小学校から英語を学び、中学、高校、そして大学でも英語を学びます。平成 32 年度からは小学 3 年生から「外国語活動」、5 年生からは「外国語科」という教科として英語を学び始めることになりました。では、なぜそこまでして英語という言葉を学ばなければならないのでしょうか？本講義では、英語という言葉の現在の状況を詳しく見た上で、日本における英語教育の今日的意義について考えてみたいと思います。 第 2 回 「本場の英語」と「学校の英語」（担当者：北村一真 准教授） 「学校で習う英語は本場とは違う」「学校で習っても実際には使えない」といったセリフを日本では耳にすることがよくあります。しかし、これはどこまで真実なのでしょう。もし、「本場の英語」が学校で習うものと違うとすれば、それはどう違うのでしょうか。逆に、「本場の英語」と学校の英語が実は変わらないのだとすれば、多くの人々があたかも違いがあるかのように感じるのはなぜなのでしょう。この講義では、「本場の英語」という言葉でわたしたちが連想する海外映画やドラマ、アニメの英語版などをヒントにして「本場の英語」と「学校の英語」の共通点と相違点、その真実を探っていきます。 第 3 回 グローバリゼーションは「地元」をどう変えたか（担当者：遠山菊夫 教授） 21 世紀のわたしたちの生活は、「地球という星の住民であること」と「自分の地域の住民である」ことを同時に意識せざるを得ないものとなってきています。外国の出来事が国境を越え、わたしたちの毎日の生活に深く大きな影響を及ぼすのはどうしてなのか、身近な「地元」という地域社会の変貌ぶりから話を起こし、「グローバリゼーション」とは何か、その本質を分かりやすく講義します。

	第4回 Intercultural Communication (担当者：坂本ロビン 教授) Intercultural Communication looks beyond the words that we use to express ourselves and instead focuses on how the message is given not only verbally but non-verbally as well as the use of various styles of communication. Students will be challenged to think of communication from another cultural background and will be asked to complete tasks that reflect the difficulties we all face when trying to communicate across cultures. <第2日> 第5回 英語におけるイントネーションの重要性 (担当者：岩本和良 教授) 英語学習者である私たち日本人に、英文和訳を経験したことがないという人はいないでしょう。しかし、音なしに英文を訳すことは非常に困難です。文脈のある長い文章であればある程度可能でしょうが、単文を取り上げてその意味を一つの日本語訳にすることは不可能です。なぜなら、イントネーションによって意味が変わってくるからです。また、私たちにとって問題なのは、英語母語話者は、私たちのイントネーションに関する間違いを間違いと理解してもらえないことが多いということです。本講義では、そのイントネーションシステムの一部について考えます。 第6回 外国人の見た日本の食 (担当者：西山桂子 准教授) 外国人観光客や海外に暮らす外国人に日本の食はどのように映っているのでしょうか。日本の外食チェーンが海外展開を進める中、また、訪日外国人の一番の関心事が和食である中、日本の食のどのような点が注目され、英語ではどのように表現、評価されているかは気になることです。ミシュランなどの食ガイドや観光ガイド、体験記などを紹介しながら、異文化の視点で日本の食を考えたいと思います。 第7回 日本語の感覚から英語の感覚へー言語が異なれば見ている世界も違うのかー (担当者：八木橋宏勇 准教授) 英語を日本語に直訳すると、しっくりこない感覚を覚えることがあります。語彙・文法・構文が異なるからだとはいえますが、「もっと根本的な違いがあるのではないか」と（認知）言語学では考えます。状況の把握に関する言語的好みは語彙・文法・構文に反映され、その結果、直訳が不可能なほど言語に多様性が生まれているともいえます。本講義では、日々の英語の勉強をがっちりした後押しする、英語学習のエッセンスを認知言語学にお伝えします。 第8回 日英語比較：「する」型英語と「ある」型日本語 (担当者：稲垣大輔 教授) 川端康成の『雪国』は「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」という一文で始まります。この文を英語に訳すと“The train came out of the long tunnel into the snow country.”。両者を比較してみると、日本語では主語がなく、「ある」という動詞を用いているのに対し、英語では the train という主語が come と動作を「する」という形をとっています。本講義では、様々な具体例を見ながら、「する」型言語としての英語と「ある」型言語としての日本語を比較言語学的視点で考察して、英語と日本語の視点・発想の違いを明らかにします。
準備学習(必須)	各種テーマについて、ニュースやウェブなどを通じてアンテナを張っておくこと。
テキスト(必須)	プリント等を配布します。
参考書	
評価方法(必須)	講義やアクティビティへの積極的な参加度、フォローアップレポートに基づいて評価します。
URL	
備考	第2回の講義については、担当者・講義内容が変更になる可能性があります。

科目 C	平成 30 年 8 月 24 日・25 日開講 1 限から 4 限 (9 : 00 ~ 16 : 10)
開講開始年度	2018
授業コード	(記入無用)
担当教員	北島、知原、小田、マルコム、加藤、岡村
科 目	英語と日本語で学ぶ「社会のしくみ」入門
授業概要 (必須)	本講義は、総合政策学部で開講されている GCP(Global Career Program)科目の一部を入門的に体験することができる、オムニバス形式の授業です。GCP は、グローバルに活躍できる人材育成を目的とした総合政策学部の選択プログラムの一つで、社会科学(政治、経済、法律、国際関係、経営、会計、福祉など)を英語で学ぶことができるよう、そこで開講されている科目授業は、英語で行われています。本講義では、これらの科目を担当している総合政策学部の教員が、英語で社会科学を学ぶための入門的な講義や演習の機会を提供します。(授業は基本的に英語と日本語の両方を用い、まずは英語で体験し、それを日本語で補足するという形式で行う予定です)
到達目標 (必須)	・社会科学系分野で使われる英語に慣れる。 ・現代社会における様々な社会事象や社会問題の基本を理解する。
授業計画 (必須)	8 月 24 日(金) 第 1 回「HIV/AIDS の世界的な状況について学ぶ」(担当者: 北島勉) HIV/AIDS は世界三大感染症の一つであり、これまで多くの人々の命を奪ってきました。最近では、「死の病」ではなくなりつつあるものの、世界では 4000 万人近い人々が感染しており、依然として大きな健康問題です。この講義では、HIV や AIDS とは何か、世界における現状、エイズの流行を終息させるための取り組みとその課題などについて解説します。 第 2 回「マーケティングについて学ぶ」(担当者: 加藤拓) マーケティングに関連する様々な用語や定義、基本的な原理などについてやさしく解説します。また、消費者の行動をどのように予測し、いかに企業の経営戦略を立案するべきかなどのテーマについても考えます。 第 3 回「現代社会における生命倫理」(担当者: 岡村裕) 生命の誕生から発達・病気への罹患・加齢・死と、すべての人間が共通に体験することになる様々な健康関連事象に関わる倫理的問題について考えます。具体的には、生殖医療、再生医療、遺伝子操作、尊厳死、臓器移植などの事例から選び、ディスカッションなどしながらその理解を深めます。 第 4 回「高齢者の福祉・介護問題を考える」(担当者: 岡村裕) 周知の通り日本は世界で最も人口の高齢化が進んでいる国の一つです。今後も高齢化は進行し続け、介護を必要とする高齢者が増加する一方で、その担い手の確保がさらに困難となることが予測されています。その対処策としての外国人介護労働者の受け入れや AI・ロボットの活用などの事例を取り上げ、それらの実情と課題について解説します。

	8月25日(土) 第5回「企業の財務管理の手法を学ぶ」(担当者：小田信之) 企業は、利益を得るために、さまざまなビジネスプランを考えます。あるプランを実行したとき、費用を上回る収益を獲得できれば成功と言えます。将来の収益には不確実性な面もありますが、的確な計画に基づいて、企業は「あるビジネスプランを実行すべきか見送るべきか」を判断しなくてはなりません。そのための基本的な考え方について解説します。 第6回「ビジネスと文化について考える ①」(担当者：マルコム・フィールド) 様々なビジネスのタイプとそこに根付く文化について考えます。伝統的なビジネス文化や企業の目標を達成するために最も望ましい文化とは何か、またビジネスにおいて生じる様々な倫理的問題とは何か、などのテーマについて解説します。 第7回「ビジネスと文化について考える ②」(担当者：マルコム・フィールド) 様々なビジネスのタイプとそこに根付く文化について考えます。伝統的なビジネス文化や企業の目標を達成するために最も望ましい文化とは何か、またビジネスにおいて生じる様々な倫理的問題とは何か、などのテーマについて解説します。 第8回「税金について考える」(担当者：知原信良) 税金は何のためにあるのだろう、税金がなくなればどうなるのだろう、という問いを出発点に税金について考えてみます。その上で、税制をめぐる特徴や課題を身近な例など具体的にみんなで考えてみたいと思います。
準備学習(必須)	新聞、テレビ、インターネットなどを通じて様々な社会現象に関わる情報を意識して入手するなど、日常生活の中で日々起きている出来事に対する関心を高めてください。
テキスト(必須)	プリント等を配布します。
参考書	
評価方法(必須)	講義やアクティビティへの積極的な参加度、フォローアップレポートに基づいて評価します。
URL	
備考	

科目 D	平成 30 年 8 月 27 日開講 1 限から 4 限（9：00～16：10）
開講開始年度	2018
授業コード	（記入無用）
担当教員	小林 治、神谷 茂、大木幸子、北島 勉
科 目	感染症を巡る諸問題とその対策
授業概要 （必須）	1918 年のスペイン風邪の世界的な流行から 100 年、国際交流の活発化に伴い、新型インフルエンザ、SARS、MERS、エボラ病などの感染症は国境を越えて拡散することが珍しくない。また、抗菌薬が効かない細菌いわゆる薬剤耐性菌は、国際問題である一方、医療・農林畜産など業種の壁を越えて取り組まなくてはならない問題である。1980 年代に LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）間での流行に端を発した HIV 感染症は、日本ではウイルスの薬剤混入という薬害で拡散し、国の責任が厳しく問われたことから、今日では行政・医療・患者が互いに一致協力して当該疾病の撲滅に取り組むしくみが出来上がった。 ここでは国際感染症、薬剤耐性菌、HIV 感染症の 3 つのキーワードから、感染症を巡る諸問題について個人、社会及び国際的な視点から考えたい。
到達目標（必須）	国際感染症、薬剤耐性菌、HIV 感染症に関する国際的な対策の方向性と、それに関わる日本の取り組みの現状について理解のうえ説明できる。
授業計画 （必須）	第 1 回 国際感染症の概要と本学の関わり（小林 治 教授） SARS、新型インフルエンザ、MERS などの国際感染症には新規発生するものや再興するものもあり、パンデミックの正確な予測は困難である。また、ワクチンや治療薬があればパンデミックを最小限に抑え死者数の抑制が可能だが、流行予測困難な疾病に関するワクチンや治療薬の開発は大学や民間企業にはリスクが大きい。ここでは担当者が経験した国際感染症とそれに端を発した抗パンデミック新薬の開発の経験を概説する。 第 2 回 抗菌薬の性状と薬剤耐性菌に対する取り組み（神谷 茂 教授） 病原細菌を殺滅する抗菌薬の臨床現場での使用は感染症による死者数を激減させ、人類に多くの恩恵を与えた。一方、抗菌薬の多用により、抗菌薬が効かない耐性(antimicrobial resistance: AMR)菌の出現がみられ、抗菌薬が効かない感染症が増加している。現在 AMR 対策が世界の喫緊の課題となっており、新規の抗菌薬や抗菌薬に代わる治療法（プロバイオティクスやバクテリアファージ療法など）の開発などが検討されている。本講義では抗菌薬の性状ならびに AMR 対策の現況と展望について解説する。 第 3 回 HIV 感染症の世界的な状況とその終息に向けた取り組み（北島 勉 教授） HIV/AIDS は世界三大感染症の一つであり、これまで多くの人々の命を奪ってきました。最近では、「死の病」ではなくなりつつあるものの、世界では 4000 万人近い人々が感染しており、依然として大きな健康問題です。この講義では、HIV や AIDS とは何か、世界における現状、エイズの流行を終息させるための取り組みとその課題などについて解説します。 第 4 回 HIV とともに「生活する」ことの意味と支援を考える（大木幸子 教授） 日本における 2016 年末の HIV 陽性者の累積報告件数は、薬害による感染例を除き 2 万 700 人に達している。HIV 感染症の治療状況は大きく進歩し、定期的通院と服薬によって回復し、感染前の日常生活を送れるようになっている。しかし、依然「HIV 陽性」であることは、家族や周囲の人々に伝えられない状況にあり、そのことによって社会生活が大きく影響をうけている。本授業では、国内の HIV 感染症/エイズ患者の動向を踏まえて、前述したような HIV 陽性者のおかれている状況を HIV 陽性者の手記や DVD、事例紹介を題材にしながら、学ぶ。
準備学習（必須）	特になし
テキスト（必須）	プリント等資料配布
参考書	
評価方法（必須）	授業内容に対して疑問・質問等があれば遠慮なく発言する積極性を評価。
URL	
備考	

提出用 ①

申請年月日： 平成 年 月 日

平成30年度 杏林大学 高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」 夏季集中講座の受講申込書

フリガナ				性 別
氏 名				男 ・ 女
生年月日	平成	年	月	日 (歳)
高等学校	高等学校 学年 組			
学校長承認欄	平成	年	月	日 記名 (印)
自宅住所				
自宅電話番号			個人Eメール	
志望動機				

緊急連絡先	フリガナ			
	氏 名	本人との関係 ()		
	電話番号			
保護者記入欄	署名・捺印をお願いします。 「杏林大学 高校生対象 夏季集中講座」の科目受講を承諾します。 平成 年 月 日 保護者氏名 (印) (続柄)			

※右の宛先まで郵送またはFaxにて提出してください。
 ※ご記入いただいた個人情報については適正に取扱い、「高校生対象・夏季集中講座の受講」運営以外の目的では使用しません。

平成30年8月7日（火）までに必着

〒181-8612
 東京都三鷹市下連雀5-4-1
 杏林大学 高大接続推進室
 担当： 晝間 青柳 小金井
 Tel： 0422-47-8000（内線 3602,3614～3616）
 Fax： 0422-47-8056

提出用 ②

平成 30 年 杏林大学「高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」 夏季集中講座

受講科目選択リスト

受講をしたい科目を下記、科目 A, B, C, D から選び、○印をつけてください。

複数選択することもできます。

時間割とシラバス（授業内容）は別紙をご覧ください。

氏名

学校名

科 目 名	科目 A 口語中国語		科目 B 英語をとりまく多彩 な学問		科目 C 英語と日本語で学ぶ 「社会のしくみ」入門		科目 D 感染症を巡る 諸問題とその対策
	中国語系		英語系		総合政策系		保健学系
	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目
	8 月 20 日 (月)	8 月 21 日 (火)	8 月 22 日 (水)	8 月 23 日 (木)	8 月 24 日 (金)	8 月 25 日 (土)	8 月 27 日 (月)
受講申込 科目を選 び、右欄に ○印							

平成 30 年 8 月 7 日 (火)

までに必着

〒181-8612

東京都三鷹市下連雀 5-4-1

杏林大学 高大接続推進室

担当 : 晝間 青柳 小金井

Tel : 0422-47-8000 (内線 3602,3614~3616)

Fax : 0422-47-8056

＜アドバンスト・プレイスメント について＞

アドバンスト・プレイスメントとは、意欲のある高校生が大学の授業を履修し、合格・修了した場合に、大学の正規の単位として認められる制度です。単位は杏林大学の入学後に認められます。また、杏林大学は、桜美林大学、創価大学、敬愛学園前橋国際大学と単位互換協定を結んでおり、各大学に入学した場合も入学後に単位が認められる可能性もあります。

8/20～8/25 の中国語系、英語系、総合政策系の 3 科目について、合格・修了した高校生の中で希望する方は、所定の手続きをして頂くことで、大学の正規の単位として 1 科目当たり 1 単位が与えられます。

このアドバンスト・プレイスメントの単位認定を希望される高校生は、

提出用 ③

 に必要事項を記入して提出してください。後日、手続き等の詳細をお送りします。

提出用 ③

アドバンスト・プレイスメント申請用紙（提出は任意です）

私は、平成 30 年度杏林大学夏季集中講座を履修し、合格・修了した場合には、アドバンスト・プレイスメントによる単位認定を希望します。

受講する科目にチェック☑：
☐ 中国語系 科目 A 8/20・21
☐ 英語系 科目 B 8/22・23
☐ 総合政策系 科目 C 8/24・25

氏名

住所（手続書類郵送先）

郵便番号

電話

高校名・学年